

## 日本分析化学会九州支部 2013年度 幹事会議事録

日時：平成25年11月7日（木） 13：30～16：30

会場：博多グリーンホテル2号館2階 第10会議室

参加者：原田 明（九大院総理工・支部長）、吉留 俊史（鹿大院理工・副支部長）、甲斐雅亮（長崎大院医歯薬・監査、本部理事）、松井 利郎（九大院農・次期支部長、ぶんせき編集委員）、河済 博文（近大産業理工）、下田 満哉（九大院農）、高椋 利幸（佐賀大院工）、浜瀬 健司（九大院薬）、山口 敏男（福岡大理）、和田 光弘（長崎大院医歯薬・監査、本部理事）、今坂 藤太郎（九大院工）、大庭 義史（長崎国際大薬）、岡上 吉広（九大院理）、片山 佳樹（九大院工）、神崎 亮（鹿大院理工・分析化学編集委員）、岸川 直哉（長崎大院医歯薬）、黒木 広明（第一薬科大）、田中 充（九大院農）、中島 憲一郎（長崎国際大薬）、中山 守雄（長崎大院医歯薬）、能田 均（福岡大薬）、肥後 盛秀（鹿大院理工）、柳 雅之（(株)三井化学分析センター大牟田事業所）、山口 政俊（福岡大薬）、吉田 秀幸（福岡大薬）、脇田 久伸（福岡大理）、石岡 寿雄（九大院総理工・庶務幹事）、磯田 美紀（九大院総理工・会計幹事）

敬称略、合計28人。

支部長挨拶、役員自己紹介

幹事自己紹介

### 1. 報告事項

#### 1-1 2013年度支部事業経過報告および予定

##### 1-1-1 第26回春の研究講演会および第31回夏季セミナー報告

春の講演会の世話人である岡上幹事より報告がなされた（講演4件、参加者108人）。情報交換会への学生の参加が少ないので、学生の参加を期待するとのコメントがあった。

第31回夏季セミナーに関して世話人である岸川幹事からセミナー参加者合計が152名で、ポスター発表が92件と盛会であったことが報告された。また九州分析化学若手賞が10名に授与された。

##### 1-1-2 第54回分析化学講習会（実行委員長 下田満哉）

第54回分析化学講習会の事業報告（受講者65人）、および会計報告があり、本年度は7万円の黒字（繰越金を除く）であったことが報告された。また繰越金は運営を円滑に行うために必要な資金である旨、理解を求められた。引き続き次年度の実行委員長を務める浜瀬常任幹事より、学生にとっては、資格がとれ、なおかつ内容も充実している分析化学講習会への参加が是非おすすめであり、学生に参加を促すようお願いしたいとのアナウンスがなされた。

##### 1-1-3 2013年度九州支部講演会

石岡庶務幹事より、翌日に行われる講演会・見学会についてのアナウンスが行われた。

#### 1-1-4 機器分析ワークショップ

原田支部長より、九州工業大学、大分大学で行われた機器分析ワークショップに関して、川上常任幹事作成の資料に基づき、報告がなされた。また久留米地区、熊本大学にて行われる予定についてもアナウンスがなされた。

#### 1-1-5 共催、協賛

原田支部長より、依頼を受けた3件の共催を認可した旨、報告があった。

#### 1-1-6 九州分析化学会賞・奨励賞

新留審査委員長が欠席のため、原田支部長より審査過程および審査結果について報告があった。

#### 1-1-7 第50会化学関連支部合同九州大会

石岡庶務幹事より参加者（分析部門54件）、九州分析化学ポスター賞（4件）について報告がなされた。ポスター賞受賞者は梶山祥太（九州大学大学院理学府）、寺田侑平（九州大学大学院工学府）、池田知弘（九州工業大学大学院情報工学府）、川越亮介（九州大学大学院薬学府）であった。

### 1-2 2013年度支部会計中間報告

原田支部長より例年通りの支出状況である旨、報告がなされた。

### 1-3 理事会報告

甲斐理事により報告がなされた。「ぶんせき」出版費用など、経費節減のため字数制限が設けられるとのこと。今坂本部幹事より補足説明があり、ダイオキシンのような標準物質の資産としての価値と処分法に関して問題となっている旨報告があった。また販売しているDVDの内容が安全管理などについて現状の実験法にそぐわない点も問題となっているとのことであった。

### 1-4 本部支部連絡会議

原田支部長より、広島年会から国際企画を実施すること、収益事業と公益事業の区分の不明瞭さを税務当局が認めるかどうかの懸念などの事項について報告がなされた。また、支部費が約5%削減の予定であることが報告された。

### 1-5 各誌編集委員会報告

#### 1-5-1 Analytical Sciences

中野幹事（編集委員）が欠席のため、石岡庶務幹事より資料の説明があった。スポンサーがついたため、30周年記念号の原稿執筆者にTシャツが贈られる等、報告がなされた。

### 1-5-2 分析化学

神崎幹事（編集委員）より特集号について報告がなされた。

### 1-5-3 ぶんせき

松井次期支部長（編集委員）より報告がなされた。

## 1-6 ASIANALYSIS XII

今坂幹事（実行委員長）より314名と予定の1.5倍の参加者でクルーズツアーの参加者250名と盛況であった旨、報告があった。気温が高く、参加者に昼食を用意できなかった点などが課題として挙げられた。

## 2. 議事

### 2-1 2015年度日本分析化学会年会の開催について

原田支部長より、2015年度日本分析化学会年会を九州大学伊都地区において、山田淳幹事を実行委員として実施する旨提案があり、了承された。また懇親会会場に関して、前回若干狭かったことを受けて、ホテル日航福岡を中心に進めていることについても賛同を得た。

### 2-2 2014年度支部事業計画案

石岡庶務幹事より2014年度支部事業計画の提案があり、例年通りということで了承された。

### 2-3 2014年度支部予算案

原田支部長より2014年度支部予算案の提案があった。収入の部における支部費の金額の修正(1,322,200→1,250,600)、支出の部における2015年度年会準備基金の額の修正(20万→50万)、およびそれら修正に伴う予備費等の金額の修正を経た上で、了承された。

### 2-4 支部役員の変更

原田支部長より支部役員の変更について説明があった。以下の通りの変更が了承された。

#### 幹事の変更

- 1) エスアイアイ・ナノテクノロジー（株） 土田 博  
→ 株式会社 日立ハイテクサイエンス 長澤 満明（社名変更、担当者変更）
- 2) チッソ（株）水俣本部 田中 一平  
→ JNC（株）水俣研究所 梶島 正美（社名変更、担当者変更）
- 3) 平尾 良光

→ 別府大学退職に伴い辞退

4) 境 幸夫

→ 宮崎大学退職予定に伴い2014年度以降辞退

幹事の推薦

5) 田中 充 (九大院農) (松井 利郎 (九大院農) 推薦)

参与

6) 箴島 豊 参与 → ご逝去

## 2-5 2014年度支部・本部関係役員

原田支部長より現段階での支部・本部関係役員について案が提出され、随時、決定・了承を受けることで了承された。

現段階での2014年度 支部・本部関係役員 (案)

### 1. 本部関係

理事 (1名) 甲斐 雅亮 (長崎大院医歯薬)

2013年度代議員 (9名)

編集委員

ぶんせき: 高椋 利幸 (佐賀大院理工)

分析化学: 呉 行正 (福岡工大工)

Anal. Sci.: 中野 幸二 (九大院工)

### 2. 支部関係

支部長 松井 利郎 (九大院農)

次期支部長 未定

副支部長 未定

監査 原田 明 (九大院総理工)

田嶋 晴彦 (化学物質評価研究機構久留米事業所)

庶務幹事 井倉 則之 (九大院農)

会計幹事 田中 充 (九大院農)

常任幹事 (13名)

(九工大・福教大) 原田 雅章 (福教大)

(九大院工)

(九大院理)

(九大院薬・第一薬大) 黒木 広明 (第一薬大)

(九大院農・九産大) 大浦 博樹 (九産大工)

(九大筑紫・近大九州工) 河済 博文 (近大産業理工)

(福岡大) 塩路 幸生 (福岡大理)

(佐賀) 高 椋 利幸 (佐賀大理工)  
(長崎・熊本) 甲 斐 雅亮 (長大院医歯薬学総合)  
(長崎・熊本) 西 田 正志 (崇城大工)  
(大分・宮崎) 大 島 達也 (宮崎大工)  
(鹿児島・沖縄) 新 垣 雄光 (琉球大理)  
(企業・官公庁) 川 上 健次 (ジェイ・サイエンス)

## 2-5 九州分析化学学会賞及び奨励賞規定の変更

原田支部長より九州分析化学奨励賞規定の変更案が提出され、了承された。

### 改定案

#### 旧

第2条 受賞者は、原則として、九州に在住もしくは九州の研究教育機関・企業等に在籍し、かつ、日本分析化学会の会員であり、九州の分析化学会の活動に積極的に参加した者で、受賞年度の4月1日現在、満30歳未満の者とする。ただし、修士課程（博士前期課程）及び博士課程（博士後期課程）に在籍する社会人及び外国人留学生にあつては満35歳未満の者とする。なお非会員は受賞時までには日本分析化学会の入会申請をしなければならない。

#### 新

第2条 受賞者は、原則として、九州に在住もしくは九州の研究教育機関・企業等に在籍し、かつ、日本分析化学会の会員であり、九州の分析化学会の活動に積極的に参加した者で、受賞年度の4月1日現在、満30歳未満の者とする。ただし、修士課程（博士前期課程）及び博士課程（博士後期課程）に在籍する場合においては満35歳未満の者とする。なお非会員は受賞時までには日本分析化学会の入会申請をしなければならない。

なお、変更に伴い、留年を繰り返すような学生等も有資格者となる懸念が議論となったが、そういう場合には審査委員会で評価可能であろうという意見であった。他に書類不備に関する処置についても議論が行われ、推薦者が十分に書類を注意して準備すべきであるという結論になった。

## 3. その他（支部役員名簿に関して）

所属の誤りについて。

(佐賀大学理工学部→佐賀大学大学院工学系研究科)。

((株)三井化学分析センター大牟田分析部

→(株)三井化学分析センター大牟田事業所)

会員資格停止者が幹事になっている点に関して指摘があり、石岡庶務幹事より調査

の上、該当幹事に問い合わせる旨回答があった。